

「ユースオブワールド 2015」

★事業の概要★

事業のねらい

日本一広大な国立公園内にある国立大雪青少年交流の家を舞台に、古くから自然や他者との共生文化を育んできたアイヌモシリ（人間の大地）に触れながら、日本の青年と東アジアからの留学生が様々な体験活動をとおして交流を深める。また、大自然とも縦横にコミュニケーションしながら、人種や国境を越えて絆を深め、持続可能な共生社会の実現に貢献し得る態度を養うとともにグローバルな視点を備えた次世代リーダーの育成を図る。

期 日

平成27年8月12日（水）～8月15日（土）

会 場

国立大雪青少年交流の家・富良野市・美瑛町・旭川市旭山動物園

対 象 者

東アジア出身（中華人民共和国、モンゴル国、大韓民国、台湾）の留学生
北海道在住の日本人高校生・大学生・勤労青年

参加者数：参加募集人数

32名（日本人実行委員9名、日本人高大生14名、留学生9名）：28名

講 師

北海道教育大学 氷見山 幸夫 名誉教授
札幌大学孔子学院 張 偉雄 学院長
旭川市旭山動物園 坂東 元 園長
富良野市役所総務部市民環境課リサイクルセンター 高橋 秀文 係長
一般社団法人美瑛町観光協会 富田 敏博 事務局長
NPO 法人「日本で最も美しい村」連合事務局員
国立日高青少年自然の家職員
国立大雪青少年交流の家職員

日 程

	08:30	12:30	13:00	14:00	15:30	16:30	17:30	18:30	21:00	22:00	
8/12 (水) 12 AUG		バス移動 Bus 札幌→旭川→美瑛 Sapporo → Asahikawa → Biei	受付・オリ Registration Orientation	オープニング Opening Ceremony	レクチャー 「地球的観点から考 える自然との共生」 Lecture	コミュニケー ションゲーム Communication Games	プレゼンテー ション「北海 道の自然と文 化」 Presentation	夕食 Dinner	グループワ ーク・ディス カッション Group Work Discussion	入浴・休憩 Bath time	就寝 Bed time
		バス Bus		大雪青少年交流の家 Taisetsu Youth Friendship Center							
8/13 (木) 13 AUG	朝のつどい 朝食 Morning Meeting, Breakfast	バス移動 Bus	フィールドワーク(各グループが設定したテーマに基づき調査) Field Work ①富良野 ②美瑛			バス移動 Bus	旭川市旭山動物園訪問 Visit Asahiyama Zoological Park and Wildlife Conservation Center	バス移動 Bus	入浴・休憩 Bath time	就寝 Bed time	
交流の家 Taisetsu Center		バス Bus	富良野市 Furano 美瑛町 Biei			バス Bus	旭山動物園 Asahiyama Zoo	バス Bus	交流の家 Taisetsu Center		
8/14 (金) 14 AUG	朝のつどい 朝食 Morning Meeting, Breakfast	トレッキング・昼食 Nature Walks, Lunch		グローバル・アクション プロジェクト Global Action Project		入浴・休憩 Bath time	クッキング・フェアウェルパーティ・多文化交流 Cooking & Farewell Party, Cultural Exchange Time		入浴・休憩 Bath time	就寝 Bed time	
交流の家 Taisetsu Center		美瑛町 Biei Nature			大雪青少年交流の家 Taisetsu Youth Friendship Center						
8/15 (土) 15 AUG	朝のつどい 朝食 Morning Meeting, Breakfast	ディスカッション プレゼンテーション Discussion Presentation	レクチャー「東アジア の友好の懸け橋とし て」 Lecture	昼食 Lunch	クロージング Closing	バス移動 Bus 美瑛→旭川→札幌 Biei → Asahikawa → Sapporo					
大雪青少年交流の家 Taisetsu Youth Friendship Center			バス Bus								

★プログラム紹介★



「レクチャー」

「地球的観点から考える自然との共生」、「旭山動物園における野生動物と環境への取組」、「東アジアの友好の懸け橋として次世代リーダーへ期待すること」等のレクチャーを行った。



「コミュニケーションゲーム」

日本人実行委員が企画した、英語で自己紹介をしながら行う人さがしゲームやドッチボール等のレクリエーションをとおして参加者の交流を図った。



「フィールドワーク」

富良野市と美瑛町のグループに分かれて環境問題等のグローバルな課題についてディスカッションし、リサイクルセンターなどのフィールド調査を行った。



「グローバルアクションプロジェクト」

交流の家から青い池までトレッキングを行った後、青い池と白金インフォメーションセンターにおいて、ゴミ拾い、観光マナーや交通ルールの啓発活動等を行った。



「クッキング・フェアウェルパーティ」

BLTサンドイッチ等をクッキング。作った料理を食べながら実行委員が企画したフェアウェルパーティを行い、ゲームや各国の文化紹介など楽しく交流した。



「プレゼンテーション」

実行委員が中心となり、富良野市と美瑛町のフィールドワーク別に調査内容やグローバルアクションプロジェクト等についての取組成果を発表した。

企画・運営のポイント

事前に2回の実行委員会を開催し、プログラムの構成や内容を話し合うなど、実行委員会の内容を充実させ、実施する交流プログラムの企画や運営について、実行委員への責任や役割を明確にして実施した。

また、アイヌ文化の自然や他者との共生をコンセプトに、環境問題や観光マナー等のグローバルな課題等について日本人と外国人留學生が意見交換し、課題解決のための具体的なアクションプランを考え、それを実行した。

事業を終えて(成果と課題)

日本の青年と東アジアからの留學生が、人種や国境を越えて絆を深め、持続可能な共生社会の実現に貢献するため、環境問題等グローバルな問題解決のためのグローバルアクションプロジェクトを実行した。

事業前後に実施した国際理解度のアンケート調査の結果で、全ての項目が上昇した。特に日本人参加者の「コミュニケーション能力」「語学力」、外国人参加者の「平等意識」「人類の共通課題への関心、認識」が大幅に向上した。また日本人を対象に実施したグローバル人材の要素についての調査では、「主体性・積極性」「チャレンジ精神」の項目が大幅に向上した。

今後の課題は、成果を広く社会へ発信することである。

今後の方向性

日本人の青年と外国人留學生が、グローバルな課題の解決に向けて活発に意見交換するには、高い語学力が必要である。

また、プログラムにゆとりをもたせ、話し合いのための十分な時間や交流の時間を確保する必要がある。